

令和5年度（2023年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

民 法

D日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和5年度（2023年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	民	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（10点）

以下の事項について、簡潔に説明しなさい。

- ・ 抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲

問題2（15点）

次の事例を読み、[問い]に答えなさい。

Y男には妻子があつたが、X女と知り合い、情交を結ぶようになった。Xは、Yに妻子があることを最初から知っていた。Yは、Xに対し、近く妻と別れて婚姻したいと話すようになり、Xの仕事を辞めさせ、不倫関係を続けるため、Xに対し、Yが所有していた未登記建物甲を贈与した。Xは甲に居住するようになり、その後もXYは甲で情交を重ねた。

その後、XYは不和になり、Yは、Xに対し甲の返還を求めるようになり、甲をY名義に所有権保存登記をした。これに対し、Xは、Yに対し、甲についてXへの所有権移転登記手続を求めた。

[問い]

XのYに対する甲についてのXへの所有権移転登記手続請求が認められるかについて、判例を踏まえ説明しなさい（Xの請求が、移転登記手続請求であるべきか、抹消登記手続請求であるべきかについては検討する必要がない）。